

■ グループ紹介

大阪大学先端科学技術共同研究センター

このセンターは民間等との共同研究を推進することを主な目的として、平成7年4月に大阪大学の吹田キャンパスに設置された。昭和63年度から全国の国立大学に地域共同研究センターあるいは先端技術共同研究センターが順次設置されてきており、当センターの設置は40番目位になる。ただ先端科学技術と名の付くセンターは平成6年度の九州大学に続いて大阪大学が2番目である。

センターには専任の助教授1、助手1の定員が認められ、私がセンターの計画に深く関わったという経緯もあってセンター長（併任）に就任した。数名の客員教授のポストも新設された。平成7年5月の第1次補正予算で約2,000m²の建物の新設が認められ、同年10月に着工、本年5月末に竣工を見た。本年7月26日には学内外から約250名の方々をお迎えして、隣接して新設されたベンチャー・ビジネス・ラボラトリーとともに建物の竣工記念披露式典・祝賀会が開催された。

建物は5階建てで1階には事務室・センター長室のほか技術相談室やセミナー室を設け、民間等の研究者を対象とした技術相談や技術研修を行っている。2階以上が研究室であり、2、4、5階にはそれぞれ情報工学（OAフロア）、バイオサイエンス（P2レベル、恒温・低温室附属）、材料開発（クリーンルーム・クラス1000及び10000）のための専用研究室を設け、これらの分野に関する共同研究を実施している。3階は多目的実験室とし、上記以外の分野の研究に使用している。

研究設備としては走査型電子顕微鏡システム、電子分光装置、X線構造解析装置、原子スケール顕微鏡システムの4点の材料評価装置が、5階クリーンルームに設置されている。

本センターの行う業務の具体的内容は（1）センターの施設等を使用して行う「民間等との共同研究」及び「受託研究」、（2）共同研究プロジェクトの産業界等への提案及びその実施、（3）大学の学術研究情報の



収集及び公開、などである。

本センターの特徴は対象とする研究分野を特に特定せず、地域社会からの要請に柔軟に対応した幅広い学際的な研究を行うことを予定していることである。先端科学技術共同研究センターという名称から、ともすれば自然科学系特に工学系の共同研究のみを想定しがちであるが、本センターでは社会科学系等を含めた異なる分野にわたる領域の共同研究や、民間と地方公共団体等複数の異なる主体にわたる共同研究等も行っている。

民間との共同研究の制度は以下に示すように3つの区分がある。

- A 民間等から研究者とともに直接経費を受け入れ、大学においても直接経費の一部を負担するもの。
- B 民間等から研究者とともに直接経費を受け入れ、大学の負担はしないもの。
- C 民間等から研究者の受け入れのみを行うもの。

平成8年度は、8月末現在で21件の共同研究（区分A9件、区分B11件、区分C1件）が実施されている。社会科学の領域にわたる研究としては「リサイクル推進のための技術・制度・評価システム」、「マルチメディア・広帯域通信サービスの需要予測」、「21世紀高齢化社会を想定した都市型集合住宅の設計基準策定」など

がある。

大学の学術研究情報の収集及び公開に関しては平成7年9月に学内の全講座を対象にアンケート「民間企業等との研究協力に関するシーズ調査」を実施し、その結果を大阪大学研究協力テーマ一覧（第1集）としてとりまとめ、平成7年12月に刊行し公表した。これには「共同研究に応じられる研究テーマ」約180件が示されている。

なお、本センターの平成7年度の詳細な活動報告は年報第1号として発行されているので、ご関心のある方は下記にご請求いただきたい。

大阪大学先端科学技術共同研究センター

〒565 大阪府吹田市山田丘2-1

（文責：大阪大学工学部長・センター長 鈴木 胖）

